

目 次

はしがき
初出一覧

第 1 部 被疑者取調べと自白

第 1 章 取調べと冤罪

はじめに	2
Ⅰ 取調べをめぐる基本的な法システム	4
Ⅱ 密室性の打破—取調べ可視化論	6
おわりに	9
補 論 冤罪を見抜いた心理学者, 見抜けなかった刑事裁判官	10
はじめに	11
日本における供述分析鑑定	11
最高裁判決に見る「心理」という語法とその意識	14
法と心理学の歴史	15
おわりに	16

第 2 章 取調べと虚偽自白

はじめに	19
Ⅰ 米国における自白法則—ミランダ判決への道	20
Ⅱ ミランダ判決のインパクト—何が変わり, 変わらなかったのか	23
Ⅲ 誤判と自白—ミランダ判決があるのになぜ	25
Ⅳ 取調べの実態—ミランダの権利放棄と取調べ	27
Ⅴ アメリカにおける改革動向	29

おわりに——2つの方向性：虚偽自白防止に向けて	30
補論 取調べ誘発型の虚偽自白について	34
はじめに	35
様々な虚偽自白のタイプ	37
おわりに——任意による虚偽自白の脅威	40

第3章 可視化と自白法則

——可視化時代の自白の任意性判断を展望する

はじめに——問題提起	44
I 方法論	46
II 富山氷見事件における取調べと冤罪	48
III 東住吉事件における取調べと冤罪	52
IV 志布志事件における取調べと冤罪	56
V 検討	60
おわりに——自白法則の再構築を展望する	70

第2部 取調べ録画の比較法

第4章 オーストラリア(1)——取調べ録画制度と自白の証拠能力

はじめに	84
I 録画立法前の状況と最高裁判例	86
II 各州における取調べ録音録画立法	87
III 自白の証拠能力をめぐる近時の最高裁判例	100
IV 我が国で提案されている法案について	111
おわりに	113

第5章 オーストラリア(2)——取調べ録画制度の実態

はじめに	121
I 調査サンプル	122

II	ERISPの実態	123
III	ERISPに対する評価	131
	おわりに——我が国における「可視化論」への示唆	136

第6章 アメリカ——法制化までの長い苦闘の歴史

	はじめに	143
I	立法化前史その1——被疑者取調べ録音録画の実態	145
II	立法化前史その2——被疑者取調べ録画に関する州判例の動向	158
III	被疑者取調べ録画をめぐる州立法	161
IV	裁判所規則による取調べ録画義務	170
V	ガイドラインによる取調べ録画義務	171
	おわりに——米国諸州における取調べ録音録画に関する制度概観と今後	173

第7章 カナダ——導入勧告と裁判例

	はじめに	181
I	カナダにおける被疑者取調べ録画導入論	183
II	カナダにおける白白法則と取調べ録画	195
III	取調べの録画と自白の証拠能力——下級審裁判例から	200
IV	取調べ録画をめぐる近時の動向	211
	おわりに	218

補論	圧迫的取調べ技法を厳しく指摘した裁判例	222
-----------	---------------------	-----

第8章 ニュージーランド——録画制度の歴史とその実情

	はじめに	227
I	取調べ録画制度の導入まで	227
II	取調べ録画制度の試験結果	228
III	取調べ録画制度の現状	230
IV	取調べ録画のインパクト	232
V	取調べ録画制度における問題点	233

おわりに	234
------	-----

第9章 イギリス——取調べ録画装置のネットワーク化

はじめに	240
Ⅰ 取調べ録音制度から録画制度へ	242
Ⅱ 取調べ録画パイロット・プロジェクトの概要	247
Ⅲ デジタル・ネットワーク化と実務規範改正	273
Ⅳ 録音録画と取調室のデザイン	277
おわりに	278

補論 取調べ録音によって供述経過が明らかにされた 幾つかの事例	283
---	-----

第3部 取調べ録画と諸科学

第10章 取調べ録画制度と撮影アングル——心理学的知見1

はじめに	290
Ⅰ 取調べ録画における3つの撮影方式とデジタル化の流れ	291
Ⅱ 撮影方式の差異による影響をめぐるラシターらの実験	292
Ⅲ 視覚効果に基づくバイアスに対する手続法的な抑制策	303
おわりに	307

第11章 取調べ技法と可視化——心理学的知見2

はじめに	311
Ⅰ 取調べをめぐる2つの視点——「伝統」か「虚像」か	312
Ⅱ 取調べ技法の歴史	315
Ⅲ 取調べの観察調査研究	317
Ⅳ 取調べ高度化の方法論	318
おわりに——刑事訴訟法学における課題との関わりから	320

補論 取調べ技法と虚偽自白の関係——リード・テクニクをめぐる	325
---------------------------------------	-----

第12章 取調べ可視化論の展開——法社会学的知見

はじめに	330
Ⅰ 可視化論の位相	331
Ⅱ 「可視化」をめぐる議論の推移	332
Ⅲ 可視化実現と刑事司法改革の関係	337
おわりに——残る「可視化」問題の課題	338

終章 可視化法制度の展望と課題

はじめに	343
Ⅰ 「可視化」論・考——可視化法制への道	344
Ⅱ ポスト「可視化」論・考——可視化に潜む危険と検討課題	354
おわりに——映像再生によって生じる危険性と防御権の保障	365

あとがき